

## 第51回 防府読売マラソン大会

### 【出場結果】

実施日 : 12月20日(日)

コース : キリンレモンスタジアムソルトアリーナ防府前県道→防府市大字田島折返し  
→キリンレモンスタジアム陸上競技場(42.195 km)

出場者 : 石原 洸 ・ 加藤 平

リザルト:

LAP ( )は5 km毎のLAP	加 藤	石 原
5 km	15'26"	16'28"
10 km	30'47" (15'21")	32'56" (16'28")
15 km	46'14" (15'27")	49'40" (16'44")
20 km	1:01'43" (15'29")	1:06'15" (16'35")
ハーフ	1:05'16"	1:10'01"
25km	1:18'23" (16'40")	1:23'01" (16'46")
30 km	1:35'39" (17'16")	1:39'29" (16'28")
35 km	1:53'29" (17'50")	1:56'13" (16'44")
40 km	2:11'26" (17'57")	2:12'47" (16'34")
GOAL	2:19'41"	2:20'24"
順位	31位/308名	37位/308名

### 【レポート】

山口県防府市で開催される本大会は、今年はコロナ禍での開催となり、大幅に規模を縮小してU-18の部に11名の招待選手、日本実業団登録者枠に約100名、一般の部は山口県民及び防府市民枠で約300名の出場で開催されました。

当社からはチーム最年長の石原とE-1格に成長した加藤の2名が出場しました。

石原は今回で10回目のフルマラソン出場となりますが、今季での引退を決めており、競技者としては最後のレース、加藤は満を持しての初マラソンとなります。

2人とも今回のマラソンに対する意味や意識付けは異なりますが、お互いがそれぞれに違う覚悟を持ってレースに挑みました。

今回は2名の外国人選手がペースメーカーを務め、1kmを3分5秒～6秒を刻むことがアナウンスされていたため、2時間15分切りを狙う加藤は積極的に先頭集団に付いていくことを選択しました。



全国のエリートランナーが一斉にスタート



先頭集団で好走する加藤

一方、石原は競技者としては最後となるレースでも堅実に2時間20分切りを狙い、1kmを3分20秒を切るペースでレースを進め、同等の記録を狙うランナーを含める大集団を引っ張る形でレースを展開しました。



自身のペースを確実に刻む石原

加藤は20km迄先頭集団に食らいつき、ルーマリアを1時間5分16秒の好記録で通過しましたが、以降は集団から少しずつ離され単独走となり、後半はペースが大きく落ち込んだものの、懸命に身体を前に進めゴールを目指しました。



石原は 25 km 過ぎまで大集団を引っ張りましたが、集団の中で力を蓄えていた選手が 2 時間 20 分切りを目指して脱走すると、石原の走りも徐々に苦しくなりました。

しかし、競技者としての最後の走りを意識し粘りを見せてゴールを目指しました。



競技者としては最後の苦しみ！ 必死に粘る石原



結果、2 人ともそれぞれの想いと戦略でレースを進め、加藤が 2 時間 19 分 41 秒、石原が 2 時間 20 分 24 秒と、ゴールでは僅差のフィニッシュとなりました。

加藤は初マラソンながらも積極的にレースに挑み、後半はマラソンの洗礼を受ける形となりましたが、今後に向け、20 km 迄先頭集団でレースを経験出来たことは大きな収穫となりました。

石原は実業団での競技人生最後のマラソンで、どんなレースでも外さない職人らしい素晴らしい走りを見せてくれました。

入社以来 13 年間の競技人生の中、駅伝では常に重要区間を担いチームに貢献し続け、マラソンでも 2 時間 18 分 31 秒の自己記録を含む数々の記憶に残るレースで常にチームを引っ張ってくれました。

彼の功績は非常に大きいですが、後は若い選手達はその想いを引き継いでくれると思います。

最後に今回、加賀禍での遠征を許可頂きました会社の関係者各位には、この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。

今後とも、皆様の温かいご声援をお願い致します。